

# 花き

## 実況

### 1 キク

奥越地区の秋植え夏ギクの芽立ちは品種間差があり、「あかね」、「夏ひかり」、「奥越の舞」等の品種では芽とびが多くみられる。不織布被覆自体は3月中下旬ころに多くの圃場で行われた。被覆が行われなかった圃場では、「小鈴」、「シューペガサス」等は出芽が遅く、出芽本数が2割程度少なかった。勝山市平泉寺では凍霜害症状(通称「シカミ」)が多くみられた。また、暮れ植え5~6月出し作型に用いられる夏ギクは、積算温度の到達に開花時期が強く影響を受けるため、開花は昨年より早く、6月上旬と思われる。



写真1 キクのシカミ症状(4/17)  
「奥越の舞」 勝山平泉寺

春植えギクの畦立てがやや遅れ、圃場の準備や定植作業に遅れがみられる。4月20日過ぎから定植が始まった。病害虫はハモグリバエ類による食害が中程度発生している。

あわら市では暮れ植えぎくの芽立ちの品種間差あり、「川風」「清風」が悪い。草丈15cm(H29年度:40~60cm)で、一部の株は脇芽がみられ、開花は5月下旬と予想される。春植えギクの定植は4月15日前後から開始された。4月中旬の断続的な強風に、マルチめくれがみられた。病害虫では、ネキリムシは例年より発生量が多い。ハモグリバエ類の食害が中程度発生している。

福井市東郷地区では挿し芽が4月10日頃、定植が4月下旬に行われた。

大土呂地区では「あかり」、「小鈴」、「小雨」等の品種が4月下旬に定植された。

丹生の越前町宮崎地区では、4月13日~20日頃にかけて、定植が行われた。品種は「花風」、「小鈴」、「恋心」、「花絵」、「恋心」、「やよい」、「かなえ」、「秀水」等である。4月17日の強風の被害は特になかった。

越前市では3月下旬から4月16日まで挿し芽が行われ、4月下旬に定植された。一部の苗は挿し芽後穂の腐りが多くなった。

二州地区では、8月咲き小ギクの「水鳥」、「翁丸」、「くれない」等が3月下旬に挿し芽、4月中旬に定植された。

若狭地区では、8月咲き「くれない」、「さきかぜ」、「翁丸」等が、4月11日より定植されている。暮れ植えギクは、「はるき」、「はなふさ」、「清風」等が栽培されているが、昨年の台風の影響で、全体に生育が悪い(4月17日調査)。

### 2 ユリ

奥越の1月下旬播種のシンテッポウユリ「F<sub>1</sub>オーガスタ」は、生育が遅く、葉数2.5枚、葉長3.5cmで、4月下旬に苗が配布され、定植は5月上旬、約1万本植付けを予定している。

あわらのシンテッポウユリ「F<sub>1</sub>オーガスタ」は1月下旬に3000本播種されたが、葉数は2~3枚、5月上旬までに定植予定。セルトレーの一部で乾燥による発芽ムラが生じている。

春江では、4月6日に定植されたLAユリ「アルデフェーラ」が出芽始めた。3月下旬

定植の「エルディーポ」の草丈は 4.3cm、葉数 20 枚、「リッチモンド」の草丈は 4.5cm で葉数 19 枚であった。

### 3 トルコギキョウ

あわら市で二度切栽培のレイナ系他の品種で、2番花が草丈10～15cm、芽の選りを行っている。追肥は3月下旬に行われた。一部で灰色かび病少発。4月定植・旧盆出荷のバルカン系他の品種では4月25日前後に定植予定。

越前市では、二度切り栽培の品種では草丈10cmで6対葉、昨年11月13日～20日に定植された6月咲品種「ボヤージュグリーン」では草丈24cmで10対葉、「ロジーナグリーン」では草丈16cmで8対葉であった（4月18日調査）。

若狭地区では、7月咲作型で購入苗が2月上旬に定植され、4月17日調査では5～6対葉であった。

### 4 その他の切り花品目

あわらのアスターは電照促成のものが3月下旬にハウス内に定植された。季咲きなのは播種準備中である。

小浜のストックは、収穫終了。

小浜のスターチス「アメリカンビューティ」および「イエロービューティ」は4月上旬に色着き始めで、草丈 60～80cm、開花は昨年より 1 週間ほど早い。

## 対 策

### 1 キクの管理

#### 1) 夏秋ギクのエスレル処理による開花抑制

- (1) 7月咲き輪ギク品種「スーパーイエロー」や小ギク品種「小鈴」等の品種で実用性が高く、摘心後1～2回のエスレル10を処理することにより、開花の抑制と切り花品質を向上させることができる。品種、作型により開花抑制の効果に差異があるので注意する（表1参照）。
- (2) エスレル10処理の時期は、摘心直後に1回目の処理を行い、2回目は14日後に柔らかい茎葉を中心に全面散布する。ただし、同一品種の開花ピークをずらす場合は、2回目10日後処理と14日後処理を畝別に行う。
- (3) 高温に遭遇していた苗や老化苗は、エスレル10の効果が低くなる場合があるので注意する。
- (4) エスレル10の散布方法は、水道水やきれいな水で500倍に希釈する。散布時期は夕方がよく、葉先から少ししたたり落ちる程度に全面散布する。
- (5) 調整した薬剤はその日のうちに使用し、他の薬剤（農薬など）との混用は避ける。
- (6) 異常気象時（高温、低温、多雨、乾燥など）には効果が不安定なので注意する。また散布12時間以内に降雨のない条件で散布する。
- (7) 本年は盆ギクの開花前進化が危惧されるため、図1を参考にエスレル10を散布する。

表1. エスレル10の散布方法

薬 剤 名	対象作物	使用濃度	使用時期	使用方法及び注意事項
エスレル10	キク	500～1,000倍	摘芯時または定植後1週間以内及びその後10～14日毎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全面散布（株全体がぬれる程度）使用回数3回以内。</li> <li>・ 早期不時発蕾防止。</li> </ul>
	キク（電照栽培）	500倍	親株摘芯時	

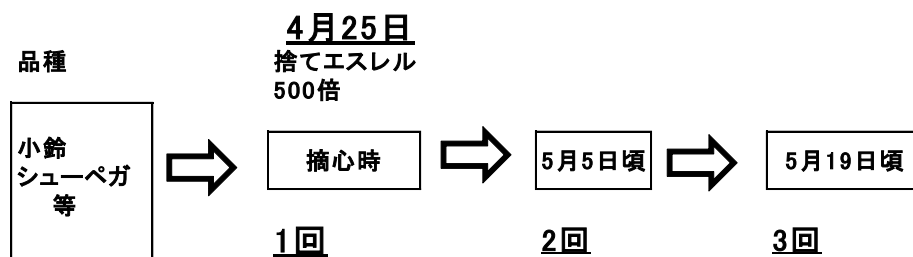


図1. 8月咲きキクのエスレル散布モデル例

## 2) ハモグリバエ類の防除

### (1) ハモグリバエ類の防除

ハモグリバエ類は5月まではナモグリバエ、6月以降に発生する種はマメハモグリバエと優占種が遷移するため、多くの種に効果がある薬剤を選定する。ディアナSC5000倍液を100～3000 /10a散布する。ハモグリバエ類の幼虫が入った葉は二次発生と細菌感染の原因となるため、下葉かきをかねて除去する。できるだけ落とした下葉も圃場から除去する。

## 2 LAユリの収穫までの管理

(1) 花蕾がのぞいてからは切り花をかたくするため、徐々に灌水を控えるようにするが、極端に灌水を控えると、葉やけの原因となるため注意する（これまでの灌水間隔が毎日なら、週3回というように間隔をあける）。特に曇雨天が続いた後、急激に晴れた時に日焼けしやすい。

(2) 生育が進むと地上部が重くなるため、曲がりが出る場合がある。ネット上げが遅れないようにし、支柱の間隔が離れている場合は、補強のために中間に杭を打つ。

(3) 萌芽初期に7～10日毎にダコニール1000、アフェットフロアブル、ポリオキシシリンAL水溶剤で防除するが、生育後半は薬剤による葉の汚れに気をつける。

## 3 トルコギキョウの管理

(1) 定植後の灌水是活着を良好にし、初期生育を促進させるため根が張るまで十分灌水する。特に、花芽分化が始まる本葉8対（草丈が15～20cm）頃までに水分や肥料が少ないと切り花のボリュームが不足するため、積極的に灌水を行なう。

(2) 2度切り栽培は、草丈が10～20cm時に生育が良い茎を残す整枝を行なう。多く茎を残すと切り花のボリュームが小さくなるので、残す茎数は、株当たり2本程度とする。ただし、株に勢いが無い時には整枝しない。

(3) トルコギキョウは根張りが悪いと上葉が小さくなる「うらごけ」がおこる。圃

場排水に努め、生育状況を見ながら、液肥を施用する。特に春植えは、活着後の生育の状態を見ながら液肥（OKF-1の500～1000倍など）を中心に追肥する。

- (4) 定植後に生育が停滞し、葉が淡黄色になって枯れる場合がある。これは主に塩類濃度（最適EC0.3～0.5mS）1.0mS以上と高い場合に多く見られる。定植前に土壤調査を行い、ECが高い場合は、水をかけ流したり、表土5cm程度を削りとり、塩類を除去するとよい。
- (5) 土壤酸度(pH)が低い時も同様な障害が発生する。土壤酸度はpH6.5前後がよく、酸性土壤ではマンガン過剰の症状、上位葉先端や周縁部に黄白斑点、新芽の萎縮が見られる。低pHには薄い石灰水（苦土石灰などの石灰資材を100g/水10ℓに溶かす）10ℓを3㎡に土壤施用する。効果が不十分であれば再度施す。
- (6) 立枯病はフザリウム菌とピシウム菌によるものが主である。フザリウムの病斑は灰白色粉状のかびが密生する。過湿にならないように管理して、丈夫に育てる。発病株は抜き取り焼却する。
- (7) 葉先枯れ対策には、日中に換気を十分行い、軟弱徒長気味の生育をさせない。また、雨や曇天が続いたあとの好天で発生しやすいので、雨や曇天の日は、通風機や暖房機の通風運転で施設内の空気を常時動かすようにする。また、例年発生が多い品種では、カルシウム剤の葉面散布を定植1か月後から1週間ごとに行うとよい。

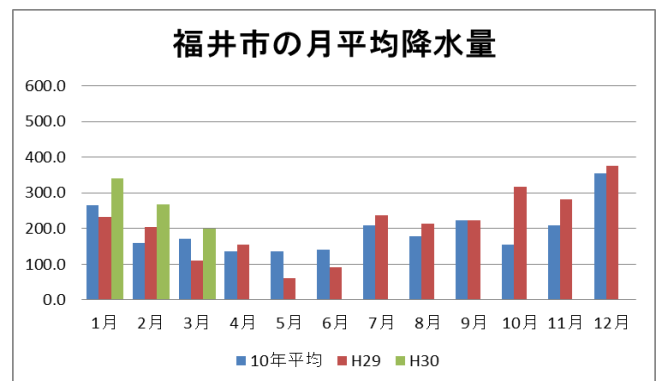
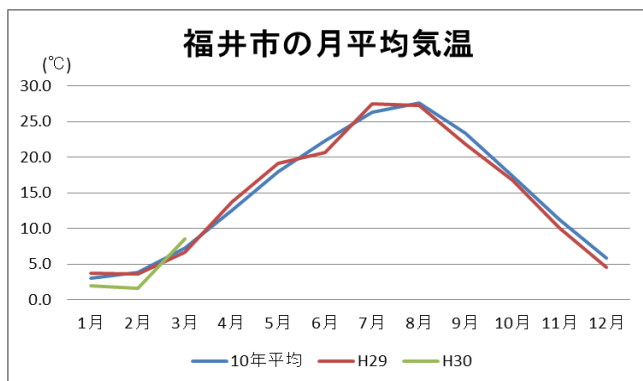


写真2：球根を乾燥させるには直射日光を避けて、陰干しを行う。

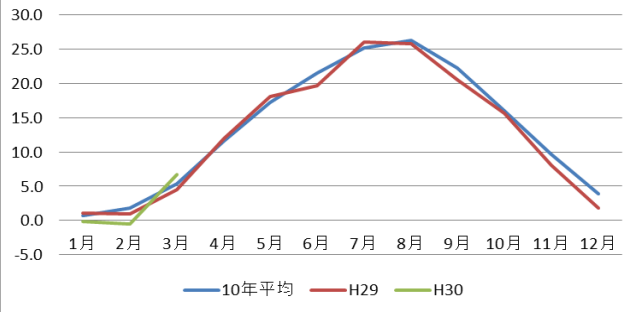
#### 4 促成スイセンの球根掘り取りと球根の貯蔵前処理

- (1) 掘り取った球根の乾燥は、高温処理を開始するまでに、球根の表皮が親指の腹で簡単にむける程度まで球根を乾燥させる。乾燥方法は、風通しのよい場所で、陰干しする(写真2)。直射日光があたると火傷状に傷が残り、腐敗の原因となるため、注意する。球根は高温とならないようにする。

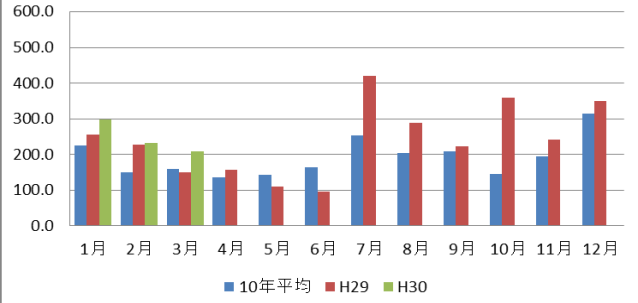
参考：アメダスの気象データ



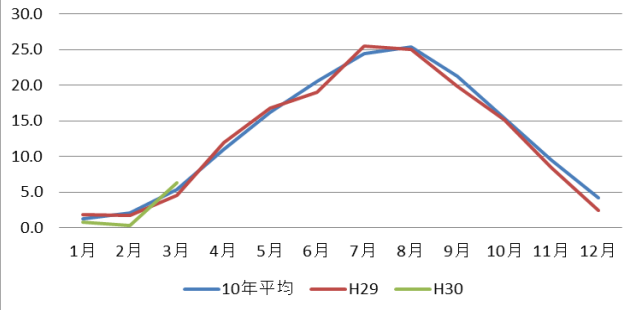
### 大野市の月平均気温



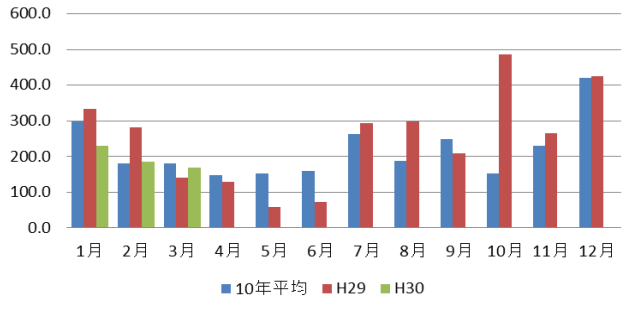
### 大野市の月平均降水量



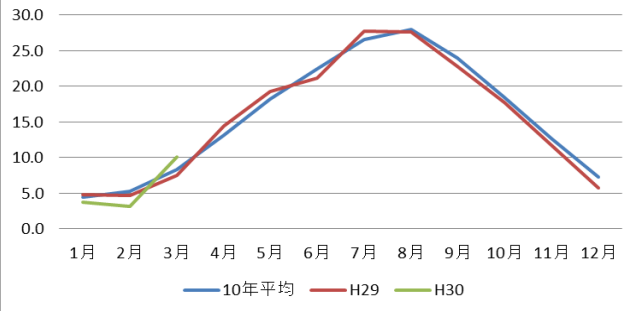
### 南越前町今庄の月平均気温



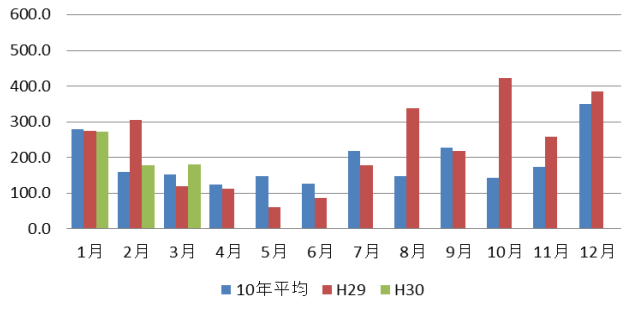
### 南越前町今庄の月平均降水量



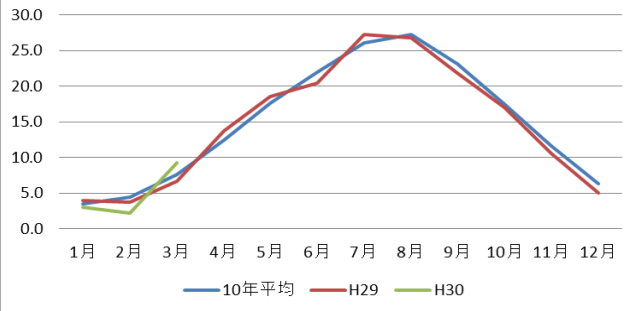
### 敦賀市の月平均気温



### 敦賀市の月平均降水量



### 小浜市の月平均気温



### 小浜市の月平均降水量

